

- 1 日時場所 令和5年12月22日(金) 15時00分開会
南魚沼市民会館 会議室研修室
- 2 出席者
委員：岡村秀康教育長、西野仁委員、角谷正雄委員、須藤文子委員、川島亜紀子委員
事務局：片桐教育部長、関学校教育課長、西潟社会教育課長、吉田生涯スポーツ課長、山田子ども・若者相談支援センター長、小林図書センター長、小島管理指導主事、南雲管理指導主事、種村教育相談指導主事、荒井指導主事、青木学校庶務主幹、山田施設主幹、林学校指導係長
- 3 議題
日程第1 **会議録署名委員の指名について**
角谷正雄委員、須藤文子委員
日程第2 **教育長及び事務局諸報告**
(教育長) (日程2ページ、教育長及び事務局諸報告のとおり)
(西野委員) 中学生の海外派遣研修について、英語の教員も同行できると、よい影響を受けるのではないかと感じている。検討してもらいたい。
(教育長) 教員の同行については、以前にはあったように記憶している。
(教育部長) 教員の同行についてはではないが、今年度参加した生徒達に、どんな海外派遣研修にすればよいか聞いたところ、もう少し英語を使う機会があるとよいと話していた。そうした要望を踏まえながら、海外派遣研修をよりよいものにしていきたい。
(西野委員) Golden Cycle Routeについて、教育委員会が進めていくことに問題はないが、もう一方では観光のための政策でもあると思う。その棲み分けはどうか。また、教育委員会が今後も関係するなら、大人のサイクリング技術やマナー等の展開についてどんなことを考えているか。
(教育部長) 国からの交付金で、市民の健康づくりと絡めながら、雪国でも乗れるような自転車を用意して展開している。その関係で、今年までは生涯スポーツ課が主体としてやってきたが、地方においての自転車は2次交通の一つにもなり得る手段であり、性格としては観光ではないかということで、内部でも協議が始まっている。生涯スポーツ課では、幼稚園の子ども達もペダルがついてないストライダーで平衡感覚を養い、自転車になれ親しむ機会を作っている。そういったところも含めて、観光客だけではなく、市民も楽しみながらGolden Cycle Routeでサイクリングするという姿が日常的に広まっていくように、行政として総合的に進めていきたいと考えている。
(西野委員) それを進めるにあたっては、矢羽根がどういう法規制の中で認知されているのかということが出てくると思う。資料を見ると、白線のすぐ右に矢羽根が引いてある。そこを子ども達が自転車で走り、事故に巻き込まれるということがあってはならない。矢羽根を設置していくのであれば、設置されている場所と設置されていない場所があるよりは、一気に設置した方がいいのではないかと感じた。
(教育部長) 矢羽根は空間を表すものであり、車のドライバーに対して、自転車の走行空間があるということを認識させ、注意喚起を促している。車がその空間の上を走ることも考えられる。他自治体の例では、矢羽根に限らず工夫して注意喚起を行っているようで

ある。県・国の道路管理者からアドバイスを受けながら、共通認識の中でそれぞれの道路管理者の責任において設置していく予定でいる。

- (スポーツ課長) 警察は、自転車は軽車両のため車道を走るべきであるが、子どもについては歩道に歩行者がいない場合、歩道を走っても構わないとの見解を示している。教育を通して、自転車のルールはこういうものであると示していくのも大切なことと考えている。
- (西野委員) 車は入れない自転車専用道路があればよい。そこで安全に練習をしてから、車が通る一般道路に出るようにすれば、安全教育につながるのではないかと感じている。
- (スポーツ課長) 自転車専用道路等、いろいろ検討していきたいと考えている。
- (教育長) 学校では、どういう指導したらいいか困るのではないかと。矢羽根を引いたのであれば、子ども達はどういうことを意識して通行すればいいのか、きちんと指導しないとわからないのではないかと。
- (小島管理) 小学校では、明確にこちらを走りなさいという指導はしていないが、歩道で自転車に乗る際には、安全に気をつけて、歩行者の迷惑にならないようにという指導はしている。
- (教育長) 小学校では、4月に交通安全指導を行っている。矢羽根が増えていくのであれば、各学校はそれについても指導しなくてはならない。学校はどのように指導すればいいのか迷うと思うので、整理してもらいたい。
- (スポーツ課長) 本市では、歩道に人が大勢いるという状況はそれほどない。子ども達が自分で道路状況を判断して自転車に乗るのは難しいと思われるので、注意しながら歩道を使用するほうが望ましいと感じている。ただし、人が大勢いるときは降りて歩く等の指導が必要だと考える。中学生以上については、基本的に車道を走行することになるが、朝夕のラッシュ時に車道を走行するのは危険である。道路交通法等を確認し、整理していきたい。
- (教育長) 西野委員から提案があったように、安全に自転車活用ができる場所、コースを作るという声を届けることも必要ではないか。
- (スポーツ課長) 大和のサイクリングターミナルのサイクリングコースや五十沢の河川敷のルート等があるが、それをまとめて紹介しているものはない。そういう場所について、生涯スポーツ課で紹介していくことはできるのではないかと考えているし、市内の状況を確認し、要望等を検討していきたい。
- (須藤委員) 安全第一のためにどうあるべきかについて検討してもらいたい。
- (教育部長) 道路環境が悪いところは道路管理者に確認し、法律の優先の中で、一番安全なところを明示していきたいと考えている。
- (角谷委員) 本日、競技用の自転車で走行している方が、赤信号で左折したのを目撃した。こういうのを子ども達が見ると「自転車はいいんだ」と、間違っただけで覚えてしまうかもしれないと危惧している。そういったことも含め、南魚沼市はどういうスタンスでいくのかを決めた方がいいと感じている。
- (スポーツ課長) 自転車は軽車両のため、そういった場合は違反になる。今後、自転車においても法が厳しくなる。市の交通安全については、環境交通課が担当しているので、連携して安全な自転車走行ができるよう進めていきたい。
- (西野委員) 事故が起きてから動くのでは遅い。子ども達が自転車の交通事故にあってから、あの時こうしておけばよかったということがないようにお願いしたい。

日程第3 管理指導主事等からの報告

- (南雲管理) 学習へ取り組みについて、1つの中学校では、天声人語を書写し、感想を課題としていると報告を受けている。読む力の育成を校内で共通理解を図り、次年度に向けた

研究テーマも読む力を中心に考えていきたいと話をしていました。もう1つの中学校では、電子黒板の活用が非常に進んでおり、ほとんどの授業で電子黒板を活用しているとの報告があった。六日町中学校の修学旅行が、12月14日から2泊3日で行われた。

(小島管理) 本日、全ての小学校で2学期が終了した。インフルエンザの流行に伴い、11小学校、3中学校で学年または学級閉鎖となった。市の教育振興会を中心とした学力向上の議論をスタートしている。国際科・英語プロジェクトについては、12月26日から活動をスタートする。それ以外の課題については、市の教育振興会理事会と教育委員会でさらに議論を深め、どのようなプロジェクトで、どのような内容に取り組むかを協議しながら進めていく。学校運営協議会が今年度からスタートしたが、現在までの様子を見ると、これまでの学校評議員制度の会議を踏襲している感じである。11月21日に開催された地域学校協働本部事業研修会で、学校運営協議会と地域学校協働本部の機能の違い、どのように連携していくかを再確認した。この研修会を機に、来年度に向けて開催の時期、回数、内容について指導助言していきたいと考えている。

(種村主事) 多くの相談があった。3学期に向けて準備を進めていきたい。

日程第4 **第36号議案 令和5年度南魚沼市学齢児童生徒の就学援助認定の可否について（11月申請分）（資料は当日配付回収）**

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第5 **その他**

(1) 子ども・若者相談支援センターの相談等状況について（11月分）

(子若センター長) (日程4ページ、11月分相談等状況について資料説明及び)

前回質問のあった、働くための準備講座とキックボクシング講座について、回答する。キックボクシング講座は、視察した加茂市にトレーニングジムの部屋があったので、南魚沼市でも子ども達にいろいろなスポーツを体験してもらうため企画した。働くための準備講座については、平成24年度から実施している事業である。長岡地域若者サポートステーションの指導員に来てもらい、コミュニケーショントレーニング等を行った。

(須藤委員) 子ども支援の相談件数が数年前より増えている。学校とのつながりが今まで以上に有効になっているのではないかと感じた。体験活動として11月6日に行われた卒業生の話を聞く会は、非常に感動した。話を聞いた児童生徒は、先輩の生の声を聞き、姿を見て、非常に勇気をもったのではないかと。自分に重ね合わせながら、将来への希望を持てたのではないかと思いき嬉しく感じている。

(2) 家庭教育支援事業実施状況（11月分）

(社教課長) (日程6ページ、11月分家庭教育支援事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(3) 学校・地域の連携促進事業実施状況（11月分）

(学教課長) (日程7ページ、11月分学校・地域の連携促進事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(4) 教育基本計画の指標と目標値の達成状況について（一部追加）

(教育部長) (日程8ページ、教育基本計画の指標と目標値の達成状況（一部追加）について資料説明)

(須藤委員) 国際理解教育活動事業の参加者数について、令和7年度の目標値が150人となっ

ている。他の項目の数値については妥当だと思うが、この150人という数値については理解しがたい。

(教育部長) コロナ流行前のイングリッシュ・ビレッジ及びインターナショナル・ビレッジは、子ども達や国際大学の学生の参加が盛んで、150人という目標値を掲げられるぐらいの人数であった。コロナ流行で中止となり昨年度から再開したが、国際大学の学生の参加状況も含め人数が少ないという状況となっている。今後も感染症等に気をつけながら、国際大学とも話し合いを行い取り組んでいきたいと考えている。

(川島委員) 放課後児童クラブを利用する児童の割合について、年々減ってるようだが、何か理由はあるのか。

(学教課長) 子どもの絶対数が減ってきているため、若干落ちてきているというような傾向が見られるが、利用率は若干だが上がっている。

(川島委員) では、どの児童クラブも定員いっぱいなのか。

(学教課長) 地域によって違っている。希望が多いクラブは定員を超える場合もあるが、そうではないクラブは若干余裕がある状況。全体では、十分定員以内に抑えられているが、全て希望どおりに入れているわけではない。

(5) その他

(南雲管理) (部活動改革の現状について当日配付資料説明)

(角谷委員) 令和8年度に地域クラブができなかった場合、湯沢町の生徒が南魚沼市の地域クラブに入りたいと言ってきた場合の対応はどうするのか。何か決まりはあるのか。

(南雲管理) 南魚沼市から外部のクラブチームに入っている生徒もいる。その部分も含めて、受入れる場合のルール作り等、今後の検討課題になってくると考えている。

(西野委員) 心配なのは指導者の質だと思っているが、指導者は申し込めば誰でもなれるのか。あるいは、こういうラインを引いている、こういう方法をとっているというようなことがあれば教えてもらいたい。

(南雲管理) 現時点での指導者については、市で直接、非行為や一般的な応急処置、知識、生徒達に接する場合の注意点などの研修を行い、部活動指導員として各学校に配置している。地域クラブの指導者については、今後検討していく。県から地域クラブ指導者用の指導コンテンツが動画として配信されているため、それらを活用しながら、今後ルール作り等進めていこうと考えている。

(学教課長) 地域クラブが、中体連の大会に所属するための登録をする際には、種目ごとにB級やC級のコーチライセンスを取得していること等、種目ごとの制約はある。そうではなく、地域で楽しんで活動することを目指した地域クラブだと、そういった制約がない。全体としてどうしていくのか、今後きちんと詰めていく必要があると考えている。

(西野委員) 指導者の確保については自己申告ではなく、本人以外から推薦書を書いてもらってはどうか。推薦書を書いた人には責任があるので、何かあった時には推薦者も一緒に考えてもらうというやり方も検討してもらいたい。

(須藤委員) 思春期の子ども達への技術指導も含め、どのようにかわり、どのように接することがその子の成長につながっていくのか、そういった教育的な部分も大切だと思う。指導者の確保については、そういったことも検討してもらいたい。

(教育長) 今後の日程について、次回教育委員会は1月26日(金)午前9時30分から市民会館で行う。第2回教育委員会は、2月20日(火)午前9時30分から市民会館で行う。以上をもって、第11回教育委員会を閉会とする。

17時15分閉議閉会